



厚生労働省
徳島労働局



Press Release

報道関係者 各位

令和 7 年 6 月 12 日

【照会先】

徳島労働局労働基準部健康安全課
課 長 岡田 英樹
地方産業安全専門官 唐井 祐樹
(電話) 088-652-9164

「全国安全週間」における徳島労働局等の 取組について

～第 98 回全国安全週間スローガン～

「多様な仲間と 築く安全 未来の職場」

徳島労働局（局長 亀井崇）は、労働災害の更なる減少を図る観点から、令和 7 年 7 月 1 日から同年 7 月 7 日までの『第 98 回全国安全週間』（準備期間：令和 7 年 6 月 1 日から同年 6 月 30 日まで）において、次の取組を実施します。

いずれの取組も、報道機関に公開の上で実施しますので、是非、取材いただければ幸いです。

1 『徳島労働局長・鳴門労働基準監督署長による合同安全パトロール』

実施日時：令和 7 年 7 月 1 日（火） 12 時 40 分から 2 時間程度

実施場所：徳島県板野郡北島町高房字八丁野東 61

※詳細は【別紙 1】をご覧ください

2 『令和 7 年度徳島産業安全衛生大会』

開催日時：令和 7 年 7 月 3 日（木） 13 時 30 分から 16 時 00 分

開催場所：あわぎんホール（徳島県郷土文化会館）4 階大会議室

※詳細は【別紙 2】をご覧ください

合同安全パトロールについて

1 実施日時

令和 7 年 7 月 1 日（火）12 時 40 分から 2 時間程度

※小雨決行。中止の場合は、取材申込をいただいた報道機関の皆様に当日朝、電話で連絡します。

2 パトロール現場

- (1) 施 工 者 大林組・クボタ・吉成建設特定建設工事共同企業体
鳴門市・北島町共同浄水場整備事業
- (2) 所 在 地 徳島県板野郡北島町高房字八丁野東 61
- (3) 工事概要 鳴門市・北島町の共同浄水場の新設工事等

3 参加者

- (1) 労働局：局長、労働基準部長、監督課長、健康安全課長、地方産業安全専門官
- (2) 鳴門労働基準監督署：署長、地方労働衛生専門官
- (3) 労働災害防止団体

4 パトロール実施要領（予定）

- 12 時 40 分 現場事務所（徳島県板野郡北島町高房字八丁野東 61）集合
- 12 時 45 分 現場事務所から施工場所に向けて出発（徒歩）
- 13 時 00 分 徳島労働局長訓話
- 13 時 15 分 施工者説明（工事概要、全国安全週間の取組事項等）
- 13 時 30 分 現場パトロール開始
- 14 時 10 分 現場パトロール終了
- 14 時 15 分 鳴門労働基準監督署長講評
- 14 時 20 分 解散、徳島労働局長ぶら下がり会見
- 14 時 30 分 終了

5 報道機関の皆様へ

- ・パトロールを取材していただける方は令和 7 年 6 月 27 日（金）午前 12 時までに報道機関名と担当者様氏名を下記事務局までご連絡願います。
- ・駐車場所・集合場所・集合時間は次のとおりです。別添の案内図もご覧ください。
 - (1) 駐車場所 現場事務所前です。車の台数を事前に事務局までご連絡願います。
 - (2) 集合場所 現場事務所
 - (3) 集合時間 令和 7 年 7 月 1 日（火）12 時 40 分
- ・保護具（ヘルメット）は事務局で用意します。

6 問い合わせ先（事務局）

徳島労働局労働基準部健康安全課 唐井祐樹（からいゆうき）

〒770-0851 徳島市徳島町城内 6-6 電話：088-652-9164 FAX：088-622-3570

メールアドレス：karai-yuuki.79h@mhlw.go.jp

鳴門北島浄水場JV工事事務所 案内図

事務所住所 徳島県板野郡北島町高房字八丁野東61
電話番号 088-697-0012

経 路

(津慈広島線より) 「北島」標識のある信号の無い交差点にて、吉野川病院 案内看板に従って南進

(松茂吉野線より) 北島中学校前 信号交差点にて、吉野川病院 案内看板に従って北進

ミニストップ向かい、「徳重」(土地貸主)の緑看板の敷地へ入る

JR勝瑞駅ショウズバイより タクシーで5分 徒歩20分 公共交通機関無し



(C)OpenStreetMap

鳴門北島浄水場 現場案内図

経路 (津慈広島線より) 「北島」標識のある信号の無い交差点にて、吉野川病院 案内看板に従って南進
(松重吉野線より) 北島中学校前 信号交差点にて、吉野川病院 案内看板に従って北進



令和 7 年度徳島産業安全衛生大会の開催について

全国安全週間は、昭和 3 年に初めて実施されて以来、「人命尊重」という基本理念の下、「産業界での自主的な労働災害防止活動を推進し、広く一般の安全意識の高揚と安全活動の定着を図ること」を目的に一度も中断することなく続けられ、今年で 98 回目を迎えます。

徳島労働局（局長 亀井崇）及び徳島県労働災害防止関係団体協議会は全国安全週間における取組の一環として、下記の内容で令和 7 年度徳島産業安全衛生大会を開催します。

大会では、県内で労働安全衛生において優れた取組を行った事業場に対し表彰状を授与するほか、下記 3 のとおり、県下の各事業場の自主的な安全衛生活動に資するプログラムを開催します。

記

1 開催日時 令和 7 年 7 月 3 日（木） 13 時 30 分～16 時 00 分（開場：12 時 30 分）

2 会 場 あわぎんホール（徳島県郷土文化会館）4 階大会議室

3 内 容

<第一部 大会式典>

- ・徳島労働局長挨拶
- ・来賓祝辞
- ・徳島労働局長表彰
- ・大会宣言
- ・安全衛生事例発表（令和 6 年度の表彰受賞者）

<第二部 特別講演>

演題「ヒューマンエラーをなくそう 安全第一は現場コミュニケーションから」

講師 有限会社アプローチ 代表取締役／人財支援コンサルタント

コミュニケーションアドバイザー 河内^{こうち}理恵^{りえ}氏

4 そ の 他 報道機関の皆様による取材は可能（事前申込不要）です。

第
98
回

全国安全週間

期間

令和7年7月1日(火)~7日(月)

準備
期間

令和7年6月1日(日)~30日(月)

多様な仲間と 築く安全 未来の職場

今年で98回目を迎える全国安全週間は、昭和3年に初めて実施されて以来、「人命尊重」という基本理念の下、産業界での自主的な労働災害防止活動を推進し、広く一般の安全意識の高揚と安全活動の定着を図ることを目的として、実施されてきました。

これまで、事業場では、労使が協調して労働災害防止対策が展開されてきました。この努力により労働災害は長期的には減少しておりますが、令和6年の労働災害については、死亡災害は集計開始以降最少となった前年を下回る見込みであるものの、休業4日以上死傷災害は前年同期よりも増加しており、平成21年以降、死傷者数が増加に転じてから続く増加傾向に歯止めがかからない状況となっています。

特に、高齢労働者の増加等を背景として、転倒や腰痛といった労働者の作業行動に起因する死傷災害が増加し続けており、また、死亡災害については、墜落・転落などによる災害が依然として後を絶たない状況にあります。

労働災害を少しでも減らし、労働者一人一人が安全に働くことができる職場環境を築くためには、令和5年3月に策定された第14次労働災害防止計画に基づく施策を着実に推進することが必要であり、計画年次3年目となる令和7年度においても、労使一丸となった取組が求められます。

そのため、令和7年度は、「多様な仲間と 築く安全 未来の職場」のスローガンの下、全国安全週間を実施することとしました。

主 唱 厚生労働省、中央労働災害防止協会

協 賛 建設業労働災害防止協会、陸上貨物運送事業労働災害防止協会

港湾貨物運送事業労働災害防止協会、林業・木材製造業労働災害防止協会

※裏面の「令和7年度全国安全週間実施要綱について」もご覧ください。

令和7年度全国安全週間実施要綱について（抜粋）

実施者の実施事項

1 安全衛生活動の推進

- ① 安全衛生管理体制の確立
 - ア 年間を通じた安全衛生計画の策定、安全衛生規程及び安全作業マニュアルの整備
 - イ 経営トップによる統括管理、安全管理者等の選任
 - ウ 安全衛生委員会の設置及び労働者の参画を通じた活動の活性化
 - エ 労働安全衛生マネジメントシステムの導入等によるPDCAサイクルの確立
- ② 安全衛生教育計画の樹立と効果的な安全衛生教育の実施等
 - ア 経営トップから第一線の現場労働者までの階層別の安全衛生教育の実施、特に、雇入れ時教育の徹底及び未熟練労働者に対する教育の実施
 - イ 就業制限業務、作業主任者を選任すべき業務での有資格者の充足
 - ウ 災害事例、安全作業マニュアルを活用した教育内容の充実
 - エ 労働者の安全作業マニュアルの遵守状況の確認
- ③ 自主的な安全衛生活動の促進
 - ア 発生した労働災害の分析及び再発防止対策の徹底
 - イ 職場巡視、4S活動（整理、整頓、清掃、清潔）、KY（危険予知）活動、ヒヤリ・ハット事例の共有等の日常的な安全活動の充実・活性化
- ④ リスクアセスメントの実施
 - ア リスクアセスメントによる機械設備等の安全化、作業方法の改善
 - イ SDS（安全データシート）等により把握した危険有害性情報に基づく化学物質のリスクアセスメント及びその結果に基づく措置の推進
- ⑤ その他の取組
 - ア 安全に係る知識や労働災害防止のノウハウの着実な継承
 - イ 外部の専門機関、労働安全コンサルタントを活用した安全衛生水準の向上
 - ウ 「テレワークの適切な導入及び実施の推進のためのガイドライン」に基づく、安全衛生に配慮したテレワークの実施

2 業種の特性に応じた労働災害防止対策

- ① 小売業、社会福祉施設、飲食店等の第三次産業における労働災害防止対策
 - ア 全社的な労働災害の発生状況の把握、分析
 - イ 経営トップが先頭に立つて行う安全衛生方針の作成、周知
 - ウ 職場巡視、4S活動（整理、整頓、清掃、清潔）、KY（危険予知）活動、ヒヤリ・ハット事例の共有等の日常的な安全活動の充実・活性化
 - エ 安全衛生担当者の配置、安全意識の啓発
 - オ パート・アルバイトの労働者への安全衛生教育の徹底
- ② 陸上貨物運送事業における労働災害防止対策
 - ア 荷台等からの墜落・転落防止対策、保護帽の着用
 - イ 荷主等の管理施設におけるプラットフォームの整備、床の凹凸の解消、照度の確保、混雑の緩和等、荷役作業の安全ガイドラインに基づく措置の推進
 - ウ 積み卸しに配慮した積付け等による荷崩れ防止対策の実施
 - エ 歩行者立入禁止エリアの設定等によるフォークリフト使用時の労働災害防止対策の実施
 - オ トラックの逸走防止措置の実施
 - カ トラック後退時の後方確認、立入制限の実施
- ③ 建設業における労働災害防止対策
 - ア 一般的事項
 - （ア）「木造家屋等低層住宅建築工事墜落防止標準マニュアル」に基づく足場、屋根・屋上等の端、開口部、はしご・脚立等からの墜落・転落防止対策の実施、フルハーネス型墜落制止用器具の適切な使用
 - （イ）足場の点検の確実な実施、本足場の原則使用、「手すり先行工法等に関するガイドライン」に基づく手すり先行工法の積極的な採用
 - （ウ）職長、安全衛生責任者等に対する安全衛生教育の実施
 - （エ）元方事業者による統括安全衛生管理、関係請負人に対する指導の実施
 - （オ）建設工事の請負契約における適切な安全衛生経費の確保
 - （カ）掘削工事における適正な施工計画、作業計画の作成及びこれらに基づく工事の安全な実施
 - （キ）一定の工事エリア内で複数の工事が近接・密集して実施される場合、発注者及び近接工事の元方事業者による工事エリア別協議組織の設置
 - イ 「山岳トンネル工事の切羽における肌落ち災害防止対策に係るガイドライン」に基づく対策の実施
 - ウ 令和6年能登半島地震の復旧、復興工事におけるがれき処理作業の安全確保、土砂崩壊災害、建設機械災害、墜落・転落災害の防止等、自然災害からの復旧・復興工事における労働災害防止対策の実施
- ④ 製造業における労働災害防止対策
 - ア 機械の危険部分への覆いの設置等によるはさまれ・巻き込まれ等防止対策の実施
 - イ 機能安全を活用した機械設備安全対策の推進
 - ウ 作業停止権限等の十分な権限を安全担当者に付与する等の安全管理の実施
 - エ 高経年施設・設備の計画的な更新、優先順位を付けた点検・補修等の実施
 - オ 製造業安全対策官民協議会で開発された、多くの事業場で適応できる「リスクアセスメントの共通化手法」の活用等による、自主的なリスクアセスメントの実施
 - カ 機械等製造者による、機械等を使用する事業者への、リスクアセスメント実施に資する残留リスク情報の提供
- ⑤ 林業の労働災害防止対策
 - ア チェーンソーを用いた伐木及び造材作業における保護具、保護衣等の着用並びに適切な作業方法の実施
 - イ 木材伐出機械等を使用する作業における安全の確保

3 業種横断的な労働災害防止対策

- ① 労働者の作業行動に起因する労働災害防止対策
 - ア 作業通路における段差等の解消、通路等の凍結防止措置の推進
 - イ 照度の確保、手すりや滑り止めの設置
 - ウ 「転倒等リスク評価セルフチェック票」を活用した転倒リスクの可視化
 - エ 運動プログラムの導入及び労働者のスポーツの習慣化の推進
 - オ 中高年齢女性を対象とした骨粗しょう症健診の受診勧奨
 - カ 「職場における腰痛予防対策指針」に基づく措置の実施
- ② 高齢労働者、外国人労働者等に対する労働災害防止対策
 - ア 「高齢労働者の安全と健康確保のためのガイドライン（エイジフレンドリーガイドライン）」に基づく措置の実施
 - イ 母国語教材や視聴覚教材の活用等、外国人労働者に理解できる方法による安全衛生教育の実施
 - ウ 派遣労働者、関係請負人を含めた安全管理の徹底や安全活動の活性化
- ③ 交通労働災害防止対策
 - ア 適正な労働時間管理、走行計画の作成等の走行管理の実施
 - イ 飲酒による運転への影響や睡眠時間の確保等に関する安全衛生教育の実施
 - ウ 災害事例、交通安全情報マップ等を活用した交通安全意識の啓発
 - エ 飲酒、疲労、疾病、睡眠、体調不良の有無等を確認する乗務開始前の点呼の実施
- ④ 熱中症予防対策（STOP!熱中症 クールワークキャンペーン）
 - ア 熱中症のおそれのある作業者の早期発見のための連絡体制の整備等を内容とする改正労働安全衛生規則に基づく措置義務の徹底
 - イ 暑さ指数（WBGT）の把握とその値に応じた熱中症予防対策の実施
 - ウ 熱中症の発症に影響を及ぼすおそれのある疾病を有する者に対して医師等の意見を踏まえた配慮
- ⑤ 業務請負等他者に作業を行わせる場合の対策
 - ア 請負人等が労働者と同じ場所で就業する場合における安全衛生の確保に必要な措置の実施
 - イ 安全衛生経費の確保等、請負人等が安全で衛生的な作業を遂行するための配慮
 - ウ その他請負人等が上記10（1）～10（3）④に掲げる事項を円滑に実施するための配慮

厚生労働省

<https://www.mhlw.go.jp/index.html>



中央労働災害防止協会

<https://www.jisha.or.jp>



職場のあんぜんサイト

<https://anzeninfo.mhlw.go.jp>



●職場の安全、全国安全週間に関する情報は
こちらでも発信しています！

厚生労働省 安全衛生

検索

中央労働災害防止協会 安全週間

検索

●労働基準監督署等への届出は
電子申請が便利です！

帳票入力支援サービス

検索

詳しくは、最寄りの都道府県労働局または労働基準監督署にご相談ください。

厚生労働省・都道府県労働局・労働基準監督署